

当健康保険組合の平成27年度の決算が、7月6日に開催された組合会で可決・承認されましたので、その概要をお知らせします。

平成27年度決算のポイント

一般勘定

収入

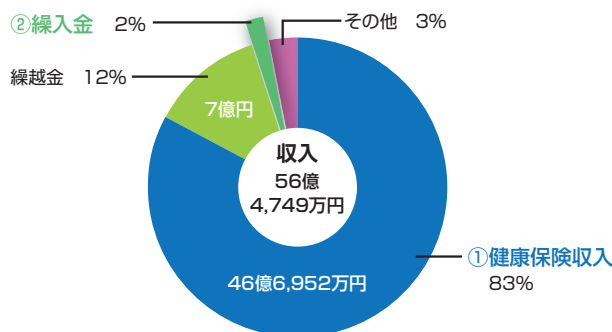
科 目	(単位：千円)	(単位：円)
決算額	被保険者1人当たり額	
①健康保険収入	4,669,520	522,727
調整保険料収入	93,408	10,457
繰越金	700,000	78,361
②繰入金	100,000	11,194
国庫補助金収入	4,392	492
特定健康診査等事業収入	18,912	2,117
財政調整事業交付金	37,088	4,152
雑収入	24,174	2,706
収入合計	5,647,494	632,206
経常収入合計	4,716,998	528,042
経常収支	-336,954	-37,720

支出

科 目	(単位：千円)	(単位：円)
決算額	被保険者1人当たり額	
事務費	115,820	12,965
③保険給付費	2,166,340	242,510
④納付金	2,077,205	232,532
⑤保健事業費	692,022	77,468
還付金	784	88
営繕費	638	71
財政調整事業拠出金	93,310	10,446
連合会費	1,556	174
雑支出	240	27
支出合計	5,147,915	576,281
経常支出合計	5,053,952	565,762

基礎数値

被保険者数	8,933人	平均標準報酬月額	433,467円
		健康保険料率	1000分の74

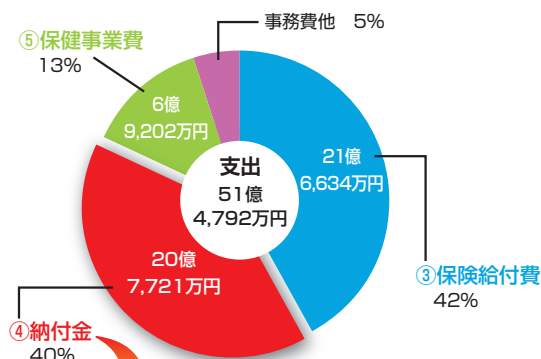


①健康保険収入

組合員と会社から納めていただく保険料で支出をまかなうのが本来です。

②繰入金

積立金1億円の繰り入れによって収支のバランスをとっています。



③保険給付費

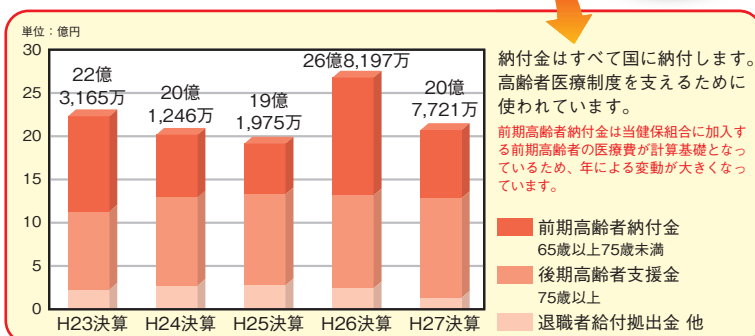
病気やけがをしたときの医療費・手当金として使われます。

④納付金

高齢者医療制度への拠出金となります。多くの健保組合が赤字となっている原因です。

⑤保健事業費

健診・保健指導、各種補助制度、保養所利用補助金等、健康づくりに使われます。



介護勘定

収入

科 目	(単位：千円)	(単位：円)
決算額	介護保険第2号被保険者たる被保険者等1人当たり額	
介護保険収入	477,916	100,276
収入合計	477,916	100,276

基礎数値

平均標準報酬月額	489,343円	介護保険の対象となる被保険者数	4,662人
		介護保険料率	1000分の12

支出

科 目	(単位：千円)	(単位：円)
決算額	介護保険第2号被保険者たる被保険者等1人当たり額	
介護納付金	420,211	88,168
介護保険料還付金	49	10
積立金	43,642	9,157
支出合計	463,902	97,335

決算のあらまし

全国の健保組合は、高齢者医療制度を支えるため、④納付金の負担により、大変厳しい財政状況にあります。当健保組合も例外ではなく、平成27年度の決算も経常収支で赤字となっています。

みなさんと会社から納めていただく健康保険料が、健保組合の主たる収入です。平成27年度の当健保組合の①健康保険収入は46億6,952万円。この範囲内で、当健保組合の事業を行うのが理想的な姿です。

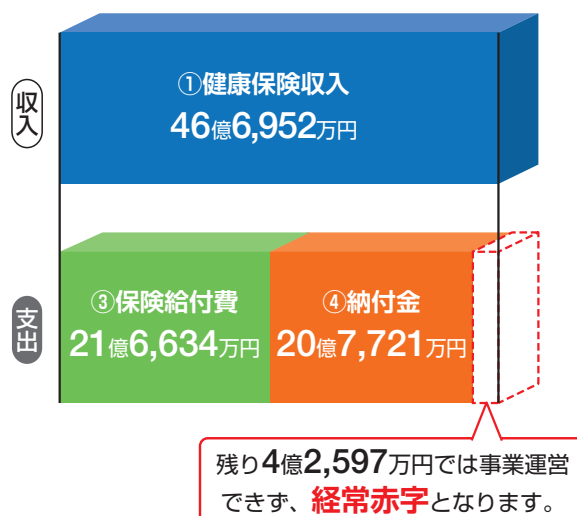
健保組合の主たる支出は、みなさんとみなさんのご家族が病気やけがをしたときの医療費や手当金などの③保険給付費で、21億6,634万円です。そして、それと並び大きな支出が、高齢者医療制度を維持するための費用となる④納付金（前期高齢者納付金・後期高齢者支援金・退職者給付拠出金）で、20億7,721万円です。

④納付金は法に定められた算式に基づいて算定され、全額を国に納付しなければなりません。

当健保組合の③保険給付費と④納付金を合計しますと42億4,355万円となり、①健康保険収入46億6,952万円の91%を占めています。

③保険給付費は組合員のみなさんが健康保持増進に努められること、医療費の賢い使い方を徹底していただくことで縮小することが可能です。

しかし④納付金については、高齢化が進む中で制度（法律）が変わらない限りは、今後さらに健保組合の財政を圧迫することが予測されます。健保組合の財政が困窮しているのは、こうした状況があつてのことです。



決算のポイント

- 健康保険収入は、前年度並みの水準でした。
- 経常収支で引き続き赤字となりましたが、前年度からの繰越金7億円と、別途積立金より1億円(前年度比9億円減)を繰り入れて対応しました。
- 引き続き健康管理事業に重点を置いて保健事業を実施しました。



平成27年度は保険料率7.4%〔1000分の74〕で、経常収支では約3億4千万円の赤字決算に終わりました。当健保組合は8年連続の経常赤字が続いており、不足分は積立金を取り崩して穴埋めしています。しかし、積立金にも限りがあるため、平成28年度からは保険料率を7.6%〔1000分の76〕に引き上げ、財政の安定を図っています。

当健保組合の保険料率は、健保組合全体の平均保険料率9.0%〔1000分の90〕、協会けんぽの平均保険料率10.0%〔1000分の100〕と比較すると、低い水準となっています。高齢者医療費を支える納付金が今後増加すると見込まれていることや、高齢化の進行等を考慮すると、さらに保険料率を引き上げることを検討する必要があります。

組合員のみなさんにはよい生活習慣を取り入れ、健康を保ち、医療費の節減に努めていただきますように、ご理解とご協力をお願いします。当組合では今後も健康づくりをサポートする各種保健事業には力を入れていきます。